

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>本事業の上位目標は「1. ラオス北部地方の障害者の社会進出を促す。2. フアパン県において障害者の新たな就労ロールモデルをつくり、行政と連携しながら北部の障害者就労を活性化する。」であり、2015年10月に事業が開始されて以来、労働社会福祉省、フアパン県、フアパン県労働社会福祉局、ラオス障害者協会や地元の郡関係者、村長達との密接な連携の下で、北部で教育や保健医療にアクセスできず家の中で閉じこもりがちの社会参加機会が著しく乏しい16歳以上の障害を持つ研修生を様々な方法で募り（労働社会福祉省データ、ラオス障害者協会のリスト、口コミ、ラジオ放送、村の告知放送などを活用）ラオス人専門家及び日本人専門家の指導の下、本年1年間で48名の前年からの継続の研修生、そして新規の17名を加えた合計65名の障害当事者の職業訓練を行った。2018年9月末現在、65名の研修生のうち、33名が就労に移行し（美容院起業11名、レストラン勤務5名、工場勤務5名、NGO 団体勤務3名、クラフトショップ起業2名、園芸ショップ起業5名、政府の造園管理2名）、32名が就労、起業を達成する為にOJTによる訓練に登録、訓練を続行している。</p> <p>詳細として、当事業では本第3期の1年間に計4回の造園・園芸研修を開催し、両方の研修で第1回18名（造園10 園芸8）、第2回28名（造園13園芸15）、第3回30名（造園15名園芸15名）第4回30名（造園15名園芸15名）合計延べ数で106名、計4回の美容研修を開催し、第1回8名・第2回以降各回10、合計（延べ数）で38名、計4回の製菓研修を開催し、第1回7名・第2回以降各回10名、合計で延べ数37名、総計（延べ数）181名のフアパン県を中心とした近隣県も含めた障害者が研修に参加し当会の仮想就労の場でもあるピエンサイの就労支援センターにおいて就労・職業訓練を実施した。また、造園に関してはピエンサイの村民もサポーターとして、4回の研修で各回20名強の村民が造園研修に参加した。桜の苗木の養生技術は研修生だけでなくピエンサイ村民皆がラオス日本両国の友好を心より盛り立て「日ラオス桜公園」を障害者の研修生と共に守り、共に育てていこうというとてもインクルーシブな公園管理の取り組みが随所に見られ、この3年間で当会事業の実施サイトであるピエンサイ村の人々の障がい者理解が大きく進み、このことは障害を持つ研修生にとっては大きな励みとなった。</p>

当会のOJTを実施する技能ワークショップ（仮想店舗）は「就労意欲の高まった障害者が即戦力となるような社会のニーズに即した仮想店舗を使った「技能訓練」であり、その訓練を経て、起業や就労へと進めるための必要な支援が提供される」現場である。この目的に鑑みて、フアパン県ビエンサイ村に当会のOJTの場である就労支援センターを開設、実際にビジネスを行いながら、就労の意義、高品質のサービスやモノを提供、販売した。この経済活動でビエンサイ村やフアパン県、近隣県のコミュニティーとつながり、コミュニティーから障害者が作るもの・サービスが3年を通じて高く評価された。第3期は研修員の技能レベルも上級に達し、職業訓練メニューは難易度も上がったが、仲間と共に技能を磨きたいと強くコミットしている研修生が多くみられた。ラオスでは、海外NGOの課題として、長い継続的な研修などがラオス人から敬遠され、職業訓練の参加者の研修定着がどの団体も大きな課題であったが、当会の裨益者は障害者であり社会参加機会がはじめから健常者と比べはるかに乏しい彼らであったが、当会は丁寧に生活面も支援しながら、定着支援を行い、3年間の間で80%の研修生が当会職業訓練に登録・継続し職業訓練に参加をすることができていた。家にひきこもりがちであった北部の障害者の彼らにとり、本職業研修が今までにない大きな社会参加の機会を作り、仲間ができることで自信にもつながり、職業訓練そのものが生きるモチベーションとなった。真面目に真摯に取り組む研修生が多かった。学力の面で学校に全く通ってこなかった障害者も多数おり、読み書きができない研修生も全体の3-4割ほどいたが、彼らには文字よりもわかりやすい標記でマニュアルも絵や写真などを多く活用し、研修生にわかりやすく伝える工夫をした。また当会のビエンチャンで実施されている知的障がい者プロジェクトで活用している研修生用の職業訓練教材づくりのノウハウを参考にしながら指示書を工夫し理解を醸成した。また、専門家による短期の講習会から障害当事者の職業や技能に対する理解をさらに深めるため、実践のための就労現場として、ビエンサイ村の「仮想就労の場」の設置はとても効果的であった。この「就労の場」運営も3年目を無事終えた。改めてこのメソッドの重要性を感じており、職業訓練や技能訓練のみでは、たとえ手に職を得たとしても、実際その持続可能な宝である技能をビジネスに生かすことは即できない。技能を活かすためのビジネスのノウハウやビジネストレーニングも必要となる。本会のフアパン県での就労支援ワークショ

	<p>ップという仮想の仕事の場で PC 技能も含めて指導し、教育を全く受けていない研修生が簡単なエクセルの商品管理や支出管理、セールス在庫管理、マーケティング、ブランディング、顧客対応スキルなど最低限のビジネス技能を OJT を通じて日々ワークショップで学び、顧客のニーズを肌で感じ、顧客からの満足度をビジネスに必要な基礎知識を学び、自分が起業するために必要な準備をより正確にイメージできるようになった。開設当初、この地が首都ビエンチャンとは異なり、地方都市のさらに小さな村であることから、障害者就労のロールモデルが生まれるには大きな経済的地理的ハンデがあったにも関わらず、ビエンサイ村やサムヌア県都の支援を受けて、また日本の専門家の起業・就職に必要なあらゆる支援を行いながら、起業をイメージできるようになった。</p> <p>当会就労支援センターでは、第3期目として、起業の基となるマネージメント能力向上を取り込んだ各職業訓練のカリキュラム過程とし、日々の OJT において反復学習をする形を最重視し、当会就労支援センターにおいて、研修生の更なる技能習得のための環境をしっかりと整えた。また、同時に昨年から引き続き、技能研修の際に各研修生の就労に向けた具体的な希望を聞き、各自の就職・起業活動に対して当センターの指導スタッフが丁寧なアドバイスを行った。また、当団体の日本人現地プロジェクトマネージャーがラオス人スタッフ及び研修生と共に近隣の公共施設、商店や飲食店などを回り、直接マーケティング方法や販売促進方法等の指導も日々の業務で実施、更に市場や商店の軒先を借りて研修生が直接製菓の販売をして製菓販売の実体験を実施したり、センター内の美容研修施設で近隣の方々に洗髪・染髪・散髪をして日々技術向上に励み、当事業で研修を受けた研修生の多くが就職・起業の道へと確実に進めるようあらゆる既存のリソースを駆使して当事業の上位目標を達成すべく 1 年間努力し、一定の就労の成果を上げた。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>2017年11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回造園研修開催 11月13日～19日 <p>研修生10名（造園）ビエンサイ村関係者20名、日本人専門家1名：於：桜公園</p> <p>* 桜公園での造園の上級講座</p> <p>ラオス日本外交樹立60周年記念に植樹された桜の木のメンテナンスも含む桜公園における桜育成保護を中心にした造園技術のデザインとメンテナンス技能習得（上級）を実施した。</p>

桜育成には「大きく立派に成長して欲しい」と言う気持ちを込めた管理が重要で有ると専門家から再度“桜育成理念”の様な心構えを叩き込まれた。また、初期の桜育成に非常に重要で有る、水鉢および周辺の土壌状態、また苗木の幹の状態を保つための手入れの方法等をしっかりと学び、今後の桜育成管理に十分な知識を得る事が出来た。初期に植樹した苗木でも3年程度しか経っておらず、樹高も大きいものでも3m程度なので、成木になった状況での桜育成管理方法についての研修を実施する環境が無く、研修実施は不可能であり、より成長した桜の管理について研修する場が無い事が懸念事項として残った。

2018年11月

・第1回美容研修開催 11月11日～17日

研修生10名 ラオス人専門家1名

於：当会研修棟

研修は主にメイクアップとヘアアレンジが中心で、研修期間内での完全な技術習得は難しいが、日々のOJTにより技術向上が可能なレベルへ到達出来た。衛生研修、シャンプー研修、反復基礎研修の実施、専門家による定期技能テスト実施。OJTによる近隣住民へのサービスと広報を兼ねた村人32人に向けた美容の施術実施（技能テストの課題）。顧客管理、衛生管理、顧客開拓、ビジネス管理等ビジネス管理も併せ学んだ。

・第1回園芸研修開催 1月31日～2月5日

研修生8名 日本人専門家1名

於：桜公園園芸用区画

障害者の収入向上につながる有望なローカルな植物の苗木を種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、売る時期と価格の目安、パッケージ方法など具体的な手法を学んだ。具体的なビジネスの販売客役はビエンサイ村の協力者をお願いし、商品説明や育成ポイントなどの説明方法も学んだ。

当会が独自で増やした植物を仕立ててポットに移植し、販売する研修の実施。今回は販売につなげるビジネスに特化した研修を行うことが出来たため、研修生にとってとても有意義なトレーニングとなった。研修以外の日でも、当会プロジェクトマネージャーによるOJTを日常的に行い、日々成育される苗木の世話や販売を行う視点から、商品としての苗木、植物の育成及び販売について学ぶことができた。

今回は園芸プログラム用にフアパン県（実質的な桜公園管理者）より許可を得て使用する桜公園の最上段部分（桜を植樹していない区画）にて園芸プログラム研修を実施した。桜の苗木とガーデニング花苗のコントラストを学ぶため、桜公園の区画を使用させてもらった（該当の場所の土は非常に堅く、とても人力で開墾出来る状態ではなかったので、事前に重機を入れて機械による開墾を行った。）

桜公園の園芸用区画をデザインされた花壇とするため、専門家がデザインした植栽計画を元に、機械で開墾された後に人力で石やガラを丁寧に取り除き、植栽場所を計測し目印のロープを張る作業をした後で花の苗を植栽し、研修を行った。

2018年2月

・第2回造園・園芸研修開催 2月7日～13日

研修生13名（造園）、研修生15名（園芸） ビエンサイ村民22名、日本人専門家2名

於：桜公園

（内容）2017年11月に専門家が調査した苗木の状態を基にして、成木に成長した状態を仮定した植樹間隔を検討し、樹勢が極端に悪い苗木の植替えを実施した。

植替え時には、桜の苗木を植樹する際の手法や注意点、成長される為の重要管理方法等の研修を実施した。

研修では、同時に2017年11月に研修した育成方法の復習をして専門家から数々のアドバイスを頂いた。

専門家からは成木になるまで継続した育成管理が必要で有り、成木になった後の剪定や追肥等のプログラム研修がプロジェクト期間中に実施出来ない事が課題点として残ると助言された。

園芸はビエンサイ村の5軒の家の庭の「ガーデニングづくり」の依頼を借り受注し、専門家と共に実際に庭づくり（花を配置、樹木を植樹）のデモンストレーションを行った。また、障害者の収入向上につながる有望な植物、苗木を種類別に、たね木の入手方法と繁殖法、栽培と管理、商品としての仕立て方、売る時期と価格の目安、苗のパッケージ造りなど実際に苗木のセールスを行う研修を実施した。

*ADDP仮想園芸ショップの開店

苗木ショップの開店（苗木育成一販売までのフローをOJTで学び、実際に681株の苗木が売れた。

・第2回美容研修開催 2月4日～10日

研修生10名 ラオス人専門家1名、日本人専門家1名

於：当会研修棟

研修はシャンプー、カット、メイクアップとヘアアレンジの復習。ビエンサイ村人を顧客とし、OJT 訓練実施。技能モニタリングの実施。日々のOJTにより技術向上が可能なレベルへ到達出来ていた。衛生研修、カラーリング研修、反復基礎研修の実施、専門家による定期技能テスト実施。村人21人に向けた美容の施術実施（技能テストの課題）。顧客管理、衛生管理、顧客開拓、ビジネス管理、掃除、カール巻きの練習を実施。

2018年3月

・第1回北部障害者状況調査実施 3月11日～17日

今回から同行する役人をカウンターパートナーの労働社会福祉省フアパン県支庁だけでなく、労働社会福祉省ビエンサイ郡支所と外務省フアパン県支庁の役人も加え、現地のカウンターパートにとってもフアパン県の障害者の生活実態が調査良く理解できる調査研修となった。今回は、フアパン県北東部の3郡で調査実施した。

訪問予定の郡労働社会福祉省へ県労働社会福祉省より事前に障害者情報提供および調査同行協力を依頼をしていたため、現地での調査活動はスムーズに進んだ。事前に入手した情報は群によっては古い情報で有り、いかに障害者状況の実態把握が遅れているかを実感した。村落調査は本当に重要である。この時期は冬季で雨も少ないため、そんなに苦勞する事も無く移動出来たが、雨季で有ったら大分苦勞するであろう場所も多々存在し、障害者に限らず、地元を離れる人々が少ないと言うのが現状で有るとの事。

・第1回製菓研修開催 3月12日～18日

研修生7名 ラオス人専門家1名

於：当会研修棟

レシピの反復練習、パッケージング、宣伝パンフレット、マーケティング初級講座、企業、レストラン、ミニマートへのセールスも開始した。事業の完全自立のための基礎経営学である人件費管理、販売や製品管理、収支バランスの分析、顧客管理や顧客開拓等、事業を回すための基礎ノウハウの総点検。コストの計算等を実施。指導者候補生が日々のOJTで新規研修生にも指導を行い、その指導方法などの改善

点をラオス人専門家やプロジェクトマネージャーからフィードバックをもらう形で技能向上を日々行っている。特に製菓はビエンチャンですでに成功している ADDP クッキー工房があるためにラオス人同士でノウハウを学び合ったり、また販売技術のアドバイスなどをビエンチャン事務所でも積極的に支援している。ビエンチャンの ADDP クッキー工房にはリーダーが数名おり、フアパンのラオス人製菓技能指導者と連携している。

今回の研修では、新しい製菓レシピを使用した研修を実施した。県や郡の職員も連日見学に訪れ、研修を熱心に見学していた。

丁度、研修期間がビエンサイ村で国の重要な閣僚会議（日本の国会の様な会議）が開催されている期間と重なったため、郡外務省職員より会議で使用するお茶菓子として、研修で試作している「バナナケーキ」と「バタークッキー」そして「桜クッキー他既存のクッキー」の提供依頼を受けた。ラオスの政府高官向けのお茶菓子として提供することだった。通常の研修で有れば、試作品は見学者等に試食してもらい、皆の感想を聞きフィードバックを得ることを通例としていたが、今回は試作品が国の重要な会議に提供されるという事で、研修生はとても光栄に思い、励まされ、大きなエンパワメントとなった。会議途中に、労働社会福祉大臣も当会フアパン県 ADDP 研修棟の見学と障害者の激励にご訪問くださった。また今回、ラオスの全閣僚に当会の桜クッキーやフアパン県の障害当事者が作るお茶菓子が喜ばれ、障がい者のポテンシャルを啓発する素晴らしい機会となった。開催時期が遅れた事により今までとは違った内容の研修になったのではないかと考える。また、研修最終日に実施した見学者とのミーティングで、クッキーやケーキはそれなりの機材が必要となり「個人で起業するにはハードルが高いのではないか？」との意見を頂き、今後の製菓研修では、その意見を取り入れたオープンを使用しない手軽に作れる製菓レシピの技術習得も実施する事も必要と感じた。技能訓練（上級）及び日本に学ぶクッキー、パン、ケーキ新規レシピ及び在庫管理、新規販路積極開拓の方法も学んだ。

・研修以外の期間

研修以外の期間、希望する研修生は、OJT の場である各ワークショップで、働きながら実際のビジネスを学んだ。職業訓練スタッフが研修生たちと共に働きながら、将来の起業、就業に向けて、アドバイス

を行い、OJT トレーニングの中で、有益な就業経験が積めるように、支援した。課題として、各研修で研修希望者の参加は有るものの、ピエンサイと言う田舎の村での集団生活への不安や、家族の都合等で引き続きワークショップにて OJT を継続希望する研修生の数は限られている。OJT 研修生増加を今年度の重点課題とし取り組んだ。

2018年3月

・第1回北部障害者状況調査実施 3月12日～15日

今回から同行する役人をカウンターパートナーの労働社会福祉省フアパン県支庁だけでなく、労働社会福祉省ピエンサイ郡支所と外務省フアパン県支庁の役人も加え、現地のカウンターパートにとってもフアパン県の障害者の生活実態が調査良く理解できる調査研修となった。今回は、フアパン県北東部の3郡での調査実施した。

訪問予定の郡労働社会福祉省へ県労働社会福祉省より事前に障害者情報提供および調査同行協力を依頼をしていたため、現地での調査活動はスムーズに進んだ。事前に入手した情報は群によっては古い情報で有り、いかに障害者状況の実態把握が遅れているかを実感した。村落調査は本当に重要である。この時期は冬季で雨も少ないため、そんなに苦勞する事も無く移動出来たが、雨季で有ったら大分苦勞するであろう場所も多々存在し、障害者に限らず、地元を離れる人々が少ないと言うのが現状で有るとの事。

*ピエンサイ村サポーターづくり

フアパン県ピエンサイ郡ピエンサイ村では日本の ODA で実施されている当会の障害者就労支援センターは、大変よく知られる存在となり、村人が頻繁に集まる地域の拠点となっている。ピエンサイ郡の役人も週に数回当会の事業を視察に来て、センターで共に事業を円滑に進めるよう便宜を図ってくれている。ラオス日本桜友好公園は日本とラオスの外交樹立 60 周年を記念して開設された 2 国間の友好のシンボルの公園でもあり、そこに植えられている 300 本を超える桜が当会の障害者により丁寧に管理されていることが、ピエンサイ郡、およびフアパン県知事にもよく理解されており、行政当局、村人からも当会の就労支援センターの活動の意義がよく理解され、また好意的に受け入れられている。周辺の地域住民が、最も身近な支援者となり障害者就労の理解者として、また顧客として当事業に貢献していることが

そのまま実現した。障害のある人、ない人、若者、子供、高齢者すべてのピエンサイ村の住人が、桜公園と当会ワークショップを理解、障害者就労支援のサポーターとして協力してくれており、村人を中心とした ADDP フアパン就労支援ワークショップのサポーターの総数は128名となり、十分に支援してくれる体制が取れている。

・第3回美容研修開催 4月7日～11日

研修生10名 ラオス人専門家1名

於：当会研修棟

研修シャンプー、カット、メイクアップとヘアアレンジの復習。ピエンサイ村人を24名顧客とし、OJT 訓練実施。技能モニタリングの実施。日々のOJTにより技術向上が可能なレベルへ到達出来ていた。衛生研修、カラーリング研修、反復基礎研修の実施、専門家による定期技能テスト実施。村人21人に向けた美容の施術実施（技能テストの課題）。顧客管理、衛生管理、顧客開拓、ビジネス管理、掃除、カール巻きの練習を実施。

・第2回製菓研修開催 4月22日～27日

研修生10名 ラオス人専門家1名

於：当会研修棟

レシピの反復練習、今までのレシピ習得の総合練習、パッケージング、宣伝パンフレット、マーケティング初級講座、企業、レストラン、ミニマートへのセールスも継続。パン、ケーキの実習

事業の完全自立のための基礎経営学である人件費管理、販売や製品管理、収支バランスの分析、顧客管理や顧客開拓等、事業を回すための基礎ノウハウの総点検。コストの計算、人件費の割り当て等。技能指導員がピエンチャンのADDPクッキー工房には多数おり、すでに養成された首都ピエンチャン在住のラオス人製菓技能指導者と連携しながら、事業語もフアパン製菓チームは問題なく技能を驗算することができるシステムを構築した。ピエンチャンチームが時折電話やスカイプでピエンチャンの新しいレシピを指導しフォローアップを実施。

2018年5月

・第2回北部障害者状況調査実施 5月8日～15日

プロジェクト最終年度で有るため、プロジェクト拠点であるピエンサイ郡およびサムヌア郡を始めとしたピエンサイ近隣郡の各村6つとフ

アバン県境のシェンクワン県北部を重点調査対象地として調査を実施して欲しいとのラオス役人からの要望で対象地域を決定した。当初サムタイ郡も調査予定地域に入れていたが、悪天候や道路拡幅工事による通行困難な場所が多く、調査予定期間内での調査を断念し、再度ラオス役人と日程調整をして調査を実施する事となった。調査と共にビジネス拡大のためのマーケティング調査の実施した。

2018年6月

・第3回製菓研修開催 6月10日～16日

研修生15名 日本人専門家1名、ラオス人専門家1名

於：当会研修棟

前回の研修で習ったバタークッキー作りを復習し、新クッキー販売へ向けて専門家に作業工程を確認してもらった。

今回は専門家を2名呼び、より細かい部分の作業工程確認を実施してもらった。前回の要望でも有るオーブンを使用しない製菓の試作も実施した。オーブンを使用しない製菓となると、ラオスで一般的な揚げ菓子がメインとなってしまい、製造工程の勉強にはなったが、新しいレシピで地域の人々が好む新しいレシピを開発することも試みた。専門家による研修生に向けた技能モニタリングと技能テストを実施。

・第3回北部障害者状況調査実施 6月11日～16日

第2回の調査残しであるサムタイ郡中心の調査となった。

調査メンバーは前回同様となる。

2018年7月

・第3回園芸研修開催 7月4日～8日

研修生15名 ラオス人指導者

於：桜公園園芸用区画

11月に開催を予定している、ピエンサイ郡50周年のイベントに向けての準備も兼ねた研修を実施して欲しいとのピエンサイ郡長からの要望があったため、短い日程ではあるが、公園の園芸プログラムで使用している2区画をより公園らしくするために花や木を植え、周辺の清掃等の研修を実施した。

2018年 7月

第4回 製菓研修開催 7月13日～18日

日本人専門家1名、ラオス人専門家2名

於：フアパン

研修生10名

ビエンサイ村人の人々10名をワークショップに招待し、接客しながら、クッキー、ケーキ、パンを製作、新しいレシピのサンプルのモニタリングのため村人から味のフィードバックを得る。

利益管理、マーケティング、ブランディング、新しいカップケーキ、タルトケーキ、クッキー2種類（タマリンドやココタムのような新しいレシピ）を披露、衛生面の復習、課題の改善を実施。

2018年8月

・プロジェクト完了報告会 8月21～22日

於：ADDP ビエンサイ事務所

MOUに基づくプロジェクト完了報告会は現地視察を兼ねて実施する必要があると労働社会福祉省本省からの指示があり、ビエンサイ事務所で実施する事となった。カウンターパートナーである労働社会福祉省は本省からプロジェクト担当職員が参加し、その他の関係各省はフアパン支庁の担当職員が参加しての報告会となった。

報告会終了後は、クッキー販売状況や美容業務の状況を確認し、クッキー販売状況は各販売店舗を訪問し、美容業務は職員自ら洗髪をしてもらい状況をチェックした。また日ラオス友好記念公園の桜の様子、公園横の園芸のための仮設ガーデニング敷地の花の様子など研修生が育成に関わっている公園を確認、障害者の職業能力の高さにラオス政府一同感銘を受けていた。

・障害者就労促進セミナー及びプロジェクト完了報告会

8月29日 於：ビエンチャン

ビエンチャンにおいて、政府関係者、教育関係者など54名を対象に障害者の就労促進と障害者のエンパワメントについて3年間の成果発表会セミナーを実施（ビエンチャン）

ビエンサイで実施した報告会では、カウンターパートナーの労働社会福祉省本省職員が参加したが、その他の関係各省はフアパン支庁の職員参加で有ったために、外務省等の本省職員へのプロジェクト完了報告を実施した。

2018年9月

・第4回美容研修開催 9月11～15日

於：ビエンチャン

研修生10名、ラオス人指導者、日本人指導者

場所：クラウンプラザホテル、ADDP 美容院

ラオスファッションウィーク2018年にADDPは今年も出場し、モデル45名のメイク、ヘアを担当。美容集中訓練（上級）をファッションショーで実施。1日5時間、連続しての忙しいファッションウィークでの仕事であったが、参加研修生はラオス人指導者や日本人指導者だけでなく、ASEANからの一流のヘア・メイクアップのプロと比べても遜色ない技術で多くのファッション業界のプロから賞賛を受けた。毎年開催されているラオスファッションウィークの会場にて日々のOJTでトレーニングを重ねたメイクアップやヘアアレンジおよびヘアカットの技能を披露出来たことは彼らの大きな自信につながった。

・第4回園芸研修 9月11日～17日

研修生10名 日本人専門家1名

於：フアパン及びビエンチャン

苗木販売の大きな問屋（ビエンチャン）に訪問し、新種の様々な苗を観察し、また、ビエンチャンの一流のホテルやレストランの庭・ガーデニングの現地調査を実施。日本の様々なガーデニング展示の画像や映像を見ながら、配色など学ぶ。植物（植物学、植物病理学、農薬）などの知識の復習（講座）や、肥料（土、肥料）、園芸資材及び安全衛生（安全管理、衛生管理）、栽培法（温室管理、栽培計画、栽培法、貯蔵法、材料（園芸植物、園芸用材料）の復習を専門家と行った。

研修以外の期間

研修以外の期間では、研修生の希望する各プログラムにおいて、OJTの場である各ワークショップで、働きながら実際のビジネスを学んでいる。

職業訓練スタッフが研修生たちと共に働きながら、将来の起業、就業に向けて、アドバイスをを行い、OJTトレーニングの中で、有益な就業経験が積めるように、支援している。

課題として、各研修で研修希望者の参加は有るものの、ビエンサイと言う田舎の村での集団生活への不安や、家族の都合等で引き続きワー

	<p>クシヨップにてOJTを継続希望する研修生の数は限られているが、今年度より聴覚障害者が参加した事によりより多くの障害者への支援が出来る様になったのは、障害者状況調査や日々の広報活動の成果が出てきたと考えられる。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>3年間の研修を終えて、造園・園芸、製菓、美容のそれぞれのプログラムで特に第3期の今年は各職業訓練において上級の技術を専門家から学び、1年を通じOJTでしっかりと技能を定着するトレーニングを経て研修生自身が自立する為に今後、学んだ技術をどのように応用し、さらにビジネスに結び付けていけるか、またさらにリーダーシップも育成され、指導員として新規の障害者にどのように指導すればよいか、事業が終わる上で現実的に将来を自発的に考えるようになった。</p> <p>技能訓練の成果として、</p> <p>(成果ア) 60名の研修生及び10名の技能訓練指導員候補生に技能がしっかりと移譲され、就労・起業ロールモデルが生まれる。</p> <p>(但し、体調を崩したり、家族の事情や学業の都合で継続できない研修生がいるため、40名を効果測定対象者として想定し、80%の定着を目標とする)</p> <p>(成果アに対する実際の成果)</p> <p>上記に対して、本プロジェクトを通じて、北部フアパン県の今まで社会参加の機会を著しく失ってきた若い障害者が、当会事業に出会い、研修生として技能訓練に参加し、障害を持つ様々な仲間に出会い、社会参加のための強い希望と自信を醸成しながら、就労・起業機会を得て、社会的・経済的自立を得ることができるようになった。対等な立場の障害当事者たちが鼓舞し合いながら共に学び、共に仕事をする障害者の就労ロールモデルが北部フアパン県にも生まれたことは、ラオスにとり大きな強みであり、障害者支援のプロジェクトが集中する中部ビエンチャン、南部とは異なる北部の地理的にも困難な地であるこのフアパン県にとっても誇りであるとフアパン県知事が語っている。フアパンも北部で育成された技能訓練各指導員は、OJTで実際に新規研修生に質の高い技術指導を行うことが出来るようになった。</p> <p>(実際の成果)</p> <p>今年次は52名の研修生に上級の修了証明書の発行。80%の研修生が80点以上の技能習得を達成し、証明書を発行することができた。</p>

指導員候補生全員の指導技能力（指導法が分かりやすいか、障害に配慮しているか等総合的指導力）を研修生にアンケート調査を行い100点満点で85点以上の評価を得た。

（成果イ）顧客及びサポート企業数が増加する。

当会のワークショップはOJT形式で実際に顧客に対しサービスや商品売ることを同時に学ぶ研修スタイルである。事業の持続性を担保するためにも近隣の村民の顧客数、及び当事業を支援するラオス内外のCSR促進企業や商店が増え、サポート企業がラオス北部地方で5社程度になる。企業が顧客として当事業で生産された商品やサービス等を購買または連携し支援が継続される。

（成果イに対する実際の成果）

① 園芸・造園を通じた就労支援部門

販売苗木数320本、ビジネス受注数12件及び一般のラオス人顧客数42人（前年比68%増）

② 製菓プログラム部門

（クッキー販売パッケージ数 4,211 PACKAGE）前年比72%増
顧客：フアパン県、ビエンチャン県並びにシェンクワン、ルアンパバン県（ラオス北部）ラオス企業数13社確保、提携中小ミニマート数、観光業ホテル及びレストラン数 33軒（前年比55%増）

③美容部門

（美容院、カット、カラー、ブロー、シャンプー等）

想定顧客；近隣一般のラオス人、在留外国人、年間の顧客延べ数215名（前年比60%増+）

商店に向けた満足度アンケート等の実施（年4回実施。9割の満足度達成）

3年目ということで2年目に目指した中級カリキュラムの完全習得と共に応用力上級のレベルアップをはかり、研修も多く研修生にはかなり厳しい課題も課したが、個々の技術レベルは2年目よりはるかに向上した。また、前年度より指導員候補生の育成を実施しているが、ビエンチャンでの研修を実施しクッキー工房やビューティーサロンでの実際の業務を習得し、それぞれの持てる技能をOJTにより他の研修生へ技術移譲した。また、達成された効果として、研修生自身が複数

の技術を同時に習得出来る環境にもなっており、例えば「造園と製菓」と言う様に数種の技術を混合させた自立の可能性もあるため、研修生は一つのプログラムに捉われる事無く、どのプログラムが自分に向いているか、また楽しく技術習得出来るか等を自身で考え将来への希望を持って日々OJTで技術向上のために邁進していることは、可能性を広げることができるため本事業の各部門が連携しながら事業を進めた。

*これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）

・各研修で研修希望者の参加は有るものの、ピエンサイと言う地方の村での生活への不安などもあり、家族の都合等で引き続きワークショップにて滞在を伴うOJTを継続希望する新たな研修生の実際の滞在型の人数の増加は推移していないが、研修への興味の問い合わせは北部全体で倍増している。（2018年8月現在251件の電話・FACEBOOK問い合わせ、仲介による事業への関心、興味が寄せられている）。3年のプロジェクトで本事業の広報が進み、当会の事業がラオス政府、北部LDPA、北部障害者の間で少しずつ浸透してきた。

・造園研修は公園の苗木の管理をOJTで継続実施し、桜の成長は早く、2018年は21本の苗木に桜の花が咲き根付くまでもう少しである。研修生も村の人々も苗木を自分たちで育て、花を咲かせる喜びがさらに増している。園芸・造園に関わる障害当事者の中では、草花、植木、公園メンテナンスに取り組み過程で、自信も醸成され、社会自立に前向きな姿勢が生まれており、障害者の研修生同士の連帯も強く生まれた。

・製菓研修は現在10種類のクッキーを製造販売しているが、カウンターパート側であるフアパン県よりフアパン県オリジナルの製菓開発を要望されているため研修生達は新商品開発の方法を自ら考え実施する能力も磨かれた。

・UXOラオスのフアパン支部と緊密に連絡を取り、不発弾被害者の社会自立のための就労支援として当会への研修事業を高く評価、被害者の情報などを提供してもらい、アウトリーチを行うことでさらに多くのフアパン県障害当事者へ支援が届くような協力体制が構築され

	<p>た。</p> <p>＊「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標の視点 当会の事業はラオスの北部フアパン県におけるラオスの中でも山岳地で最も脆弱な立場の障害当事者に向けた職業訓練を提供する事業であり、裨益者は障害当事者であるために、「持続可能な開発目標（SDGs）」の該当目標8にもある「障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する」という目標に直接に貢献できる事業であり、社会的弱者であり、健常者に比べ就労機会に制限のある地方に在住するより多くの障害者が生産的な雇用と働きがいを見出すために本事業が4種の職業訓練の形態を通じて、障害者の裨益者にしっかりと「働く喜び」を提供できたと確信している。</p>
<p>（４）持続発展性</p>	<p>事業当初から特に製菓OJTでは、日々技術習得をしている研修生を指導員候補生として更なる技術向上を行い、指導員としての資質習得に向け支援およびサポートを継続しており、フアパン県やフアパン県の関係省庁もサポートを約束してくれている。</p> <p>製菓販売に協力してくれている飲食店や商店がサムヌア郡13店舗・ビエンサイ郡5店舗、シェンクワン2店舗、ルアンパバン1店舗、ビエンチャン12店舗の合計33店舗となり、月を追うごとに取扱店舗数や販売個数が増えて来ている。</p> <p>ビエンチャンの様にミニマートが多数存在する様な都会ではいため、フアパン県と言う地方の県と言う部分を考慮すると、それなりの取扱店舗数となったと考える。</p> <p>特筆すべきは、サムヌア郡には本格的なカフェが3店舗しかないが、そのどの店舗もプロジェクト理念に賛同し販売協力をしてくれている。</p> <p>今後はADDPもビエンチャンのクッキー工房や美容院と連携しながら必要に応じて専門家派遣など独自団体予算でフォローアップも行っていく。</p>